



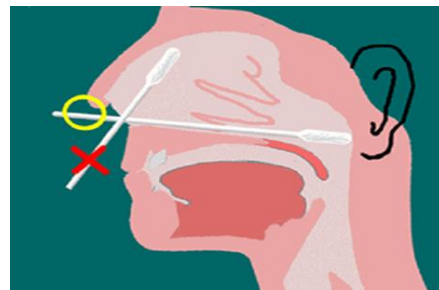
臨床の看護師の役割は検査を正しく提出すること事です！！
正しい時期に正しい方法でよい検体を！！

感染管理認定看護師 前竹明美

感染管理として、臨床で行う検体検査が診断と治療を早期化することが出来ます。そこで、今回はインフルエンザ検査の正しい検体採取方法を掲載します。臨床でご活用ください。

・インフルエンザ検査（イムノクロマト法）： 当院では鼻腔拭い液で行います。
検査を行うタイミングは？

発症後 12 時間以降がキットでウイルス量が得られる確率が高く、抗インフルエンザウイルス薬の投与が発症から 48 時間以内であることを考慮すると、**12 時間から 48 時間の間が最適**と考えられています。



採取のコツ：

- 鼻腔口から耳孔を結ぶ平面を想定し、鼻腔の最下縁に沿って綿棒を挿入する。年齢や顔の大きさなどにより異なりますが、適当な長さは、乳児は 4cm、幼児 4～5cm、学童 5～6cm 位です。
- 突き当たったところで数秒おいて綿棒を引き抜く。被験者が暴れている時は、素早くスワブを持った手を離し、静止するまで待って下さい。鼻粘膜を損傷し鼻出血を起原因になるので、無理にスワブを挿入しないでください。
- 採取した検体は乾燥することのないように、速やかに検査室へ提出。
- **最も重要なことは、検査をする医療者は PPE（手袋・マスク・ゴーグル）着用を徹底することです。** 安全な医療を行いましょう！！

認知症ケアの基本（パーソン・センタード・ケア）について

認知症看護認定看護師 篁 薫

前年度のラダー別研修会では、「アセスメントの視点をケアする側ではなく本人目線で考える、気持ちに寄り添う」などの感想をいただきました。認知症ケアのキーワードは『安心』です。自分のニーズを自分で満たすことが難しくなる認知症の人には、具体的に以下のことを行いましょう。

1. コミュニケーションの基本を大切にする
2. リアリティ・オリエンテーション（現実見当識訓練）を行う
3. 言動には必ず意味がある（その意味を探る）
4. 何ができるのか（残存機能）を探る
5. どうすればわかるのか、探る（ケアの工夫）

**** 例えば…、興奮して点滴を抜いて歩き出してしまおう〇〇さん。 ****

パーソン・センタード・ケアの目標は、「その人をよい状態にする」こと。実践の場で、どのように進めていったらよいか、悩んだときには次の『3ステップ』を活用しましょう。



認知症の人のよくない状態に気づいたときは、3ステップを踏み、今必要なケアの方法を見つけて実践していきましょう。疑問や介入困難な場合など、直接または認知症ケアチーム迄ご相談下さい。